

社会イノベーションと地方創生

地方創生のための技術イノベーション

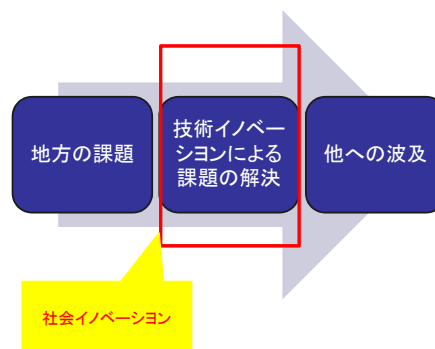
2018年2月4日
早稲田大 師岡 慎一



Morooka Lab

1

地方創生の流れ



Morooka Lab

2

一般的な技術イノベーションの意味

企業などでは、独自性そして新規性を持った
技術と考えるのが普通

Only One 技術



Morooka Lab

3

地方創生に必要な技術イノベーション (1/2)

- “新しい技術イノベーションを開発し課題を解決”することは
地方の活性化として発展につながらない!



- 理由としては、新しい技術イノベーションの開発は、
膨大な予算、期間、人的資源が必要であり、経済的な
リスクを伴い、これを地方レベルで負担すること自体
無理であり 行う必要も無い



Morooka Lab

4

地方創生に必要な技術イノベーション (2/2)

- “少ないコストで失敗する危険性が少なく、
短期的に経済的利益への貢献あるいは地方
の課題を解決することが必要である。”

地方の課題に即した既存技術の改良が最適



Morooka Lab

5

3社会モデルにおける技術イノベーションと、その発展性について (豊岡の場合)

- 課題: 野生復帰したコウノトリが住みやすい
環境作り



- 対策: 従来の農法を組み合わせ 無農薬での
“こうのとりの米”を開発

- 発展性: 食の安全が注目を浴びており、この農法
が他の食品の生産に適用できる可能性は大であり
、これが発展性に繋がると考えられる。

“こしひかり戦略”



Morooka Lab

6

3社会モデルにおける技術イノベーションと、その発展性について
(掛川の場合)

- **課題**：ごみ施設の老朽化、新しいごみ施設建設に必要な時間として予算不足

↓

- **対策**：外注業者へのごみ処理の委託という具体的な改善案を考えた (**一種の技術イノベーション**)

- **発展性**：外注業者へのごみ処理の委託 他の地方への展開の可能性大
- **委託先の技術力、継続性、価格の評価** が重要

Morooka Lab 7

3社会モデルにおける技術イノベーションと、その発展性について
(飯田市の地方創生)

- **重要な点**：多摩川精機は地元の振興が会社の理念
多摩川精機は、納入製品の部品製作を地域産業に依頼することにより コスト削減として地域の活性化に貢献しようと意図
- **課題**：部品供給会社にも、**環境マネジメントシステム**の導入を納入先より要求される
- 飯田市が推進している **環境マネジメントシステム**の活用。多摩川精機の従来技術とこの地域特有な技術を組み合わせた**技術イノベーション**
(**地方自治体との連携の重要性**)

Morooka Lab 8

地方創生への大学の貢献 (1/2)

- 地方の仕事：地方の課題を見いだす。
- **大学の貢献**

この課題を克服するためにどんな既存技術があるかの調査検討。

既存技術に本当に課題はないのか、この地方に適しているのか、どんな改良が必要かの検討

Morooka Lab 9

地方創生への大学の貢献 (2/2)

- 大学は案は考えるが、
既存技術改良の具体化は苦手
- 既存技術改良の具体化には企業との連携必要
- この技術の他の地方への展開については、
企業、大学として地方自治体の連携が必要

Morooka Lab 10

まとめ

- 地方創生には、地方の課題に即した既存技術の改良が最適
- 改良技術の展開については、
企業、大学として 地方自治体の連携が必要

Morooka Lab 11